

Canon EF LENS

EF200-400mm f/4L IS USM Extender 1.4x



IMAGE STABILIZER

 ULTRASONIC

JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF200-400mm F4L IS USM エクステンダー 1.4×は、1.4倍の内蔵エクステンダーと手ブレ補正機能を備えた、EOSカメラ用高性能望遠ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer(手ブレ補正機能)の略称です。
- USMはUltrasonic Motor(超音波モーター)の略称です。

特長

1. 1.4倍エクステンダーを内蔵しています。(切り換えレバーにて1×と1.4×に切り換え可能)
2. シャッター速度換算で、4段分* (焦点距離560mm、内蔵エクステンダー 1.4× 選択、EOS-1D X使用時)の手ブレ補正機能を備えています。
また不規則に動く被写体を撮影する場合に有効な手ブレ補正モード3を備えています。
3. 蛍石レンズとUDレンズを採用することにより、優れた描写性能を実現しています。
4. SWC (Subwavelength Structure Coating)を採用することにより、フレアやゴーストの発生を低減しています。
5. 最前面と最後面のレンズ面に、フッ素コーティングを採用することにより、付着した汚れを従来に比べて簡単に取り除くことができます。

6. 超音波モーター(USM)搭載により、高速で静かなオートフォーカスを実現しています。
7. オートフォーカスモード(ONE SHOT AF時)のまま、合焦後にマニュアルでピント調整ができます。
8. オートフォーカス作動を一時中断することができる、AFストップボタンを備えています。
9. スムーズなピント送りが行える、パワーフォーカスモードを備えています。
10. 事前に記憶させておいた位置に、瞬時にピントを合わせることができる、フォーカスプリセット機能を備えています。
11. 円形絞りの採用により、なめらかで美しいボケ味が得られます。
12. エクステンダー EF1.4×III/EF2×IIIが使用できます。
13. 画面切り替えロックつまみのカバーの下に、セキュリティーワイヤーの取り付け部を備えています。
14. 密閉構造の採用により、優れた防塵・防滴性能を備えています。
15. 主要部分にマグネシウム合金を採用した軽量設計になっています。

* CIPA (カメラ映像機器工業会) 規格によります。
また、実際の撮影では、ブレ量や撮影条件により手ブレ補正効果が異なります。

安全上のご注意

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因になります。
- レンズ、またはレンズを付けたカメラを太陽に向けたり、撮影をしたりしないでください。
太陽が画面外にあるときや逆光撮影の場合でも、レンズに入った太陽の光が集光し、故障や火災の原因となることがあります。
- レンズ、またはレンズを付けたカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
- レンズをカメラに取り付けた状態では、三脚の取り付けを含めてレンズ側を必ず保持してください。カメラ側のみを保持した場合、カメラボディやレンズ本体を傷つける恐れがあります。またマウントからレンズが外れ落下して、けがをすることがあります。
- カメラに取り付けたストラップは使用しないでください。マウントが壊れレンズが落下してけがをしたり、カメラを傷つける恐れがあります。専用のストラップをレンズ側の取り付け部に正しく付けてご使用ください。
- レンズケースの上には乗らないでください。転倒してケガをすることがあります。
- レンズケースを積み重ねないでください。倒れてきてケガをすることがあります。

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。レンズの故障の原因になることがありますので、このような場所にレンズを放置しないでください。

本文中のマークについて

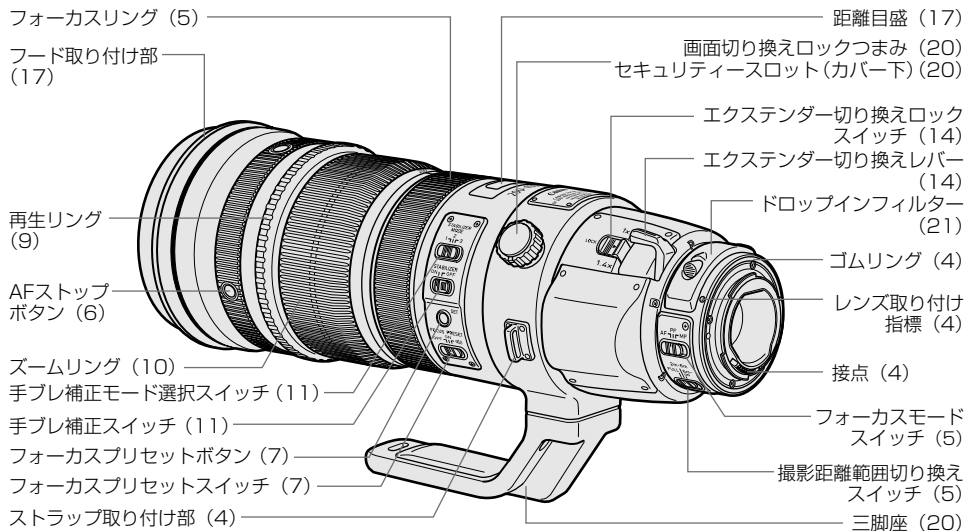


撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

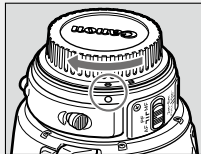
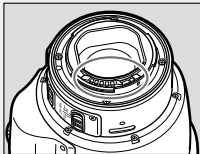
各部の名称



● (**) の**部は参照ページを示しています。

1. レンズの着脱

レンズの着脱方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

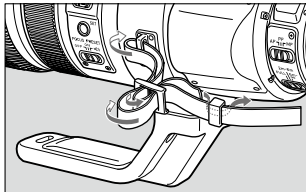


- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、ダストキャップを付けてください。取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。



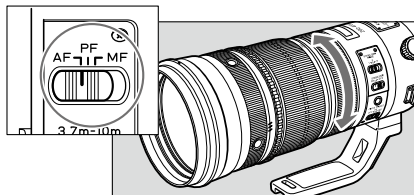
このレンズでは、防塵・防滴性能を向上させるため、マウント部にゴムリングを採用しています。レンズの着脱を繰り返すと、カメラ本体のマウントの外周部分にゴムリングの細かい擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題はありません。なお、ゴムリングはキヤノンサービスセンターで交換できます。(有料)

ストラップの取り付け方




ストラップの先端を、ストラップ取り付け部に通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。ストラップを引っ掛けて、留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

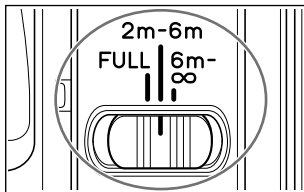
2. フォーカスモードの設定



オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを回します。フォーカスリングは、フォーカスモードに関係なくいつでも動かせます。パワーフォーカス(PF)で撮影するときは、フォーカスプリセットスイッチ (P.7) がOFFの状態、フォーカスモードスイッチをPFにします。再生リングを操作することで、一定速度でピントを送ることができます。動画撮影時のピント送りに便利です。

 カメラのAFモードがONE SHOT AFのときは、AFでピントを合わせたあと、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。(フルタイムマニュアルフォーカス)

3. 撮影距離範囲の切り換え

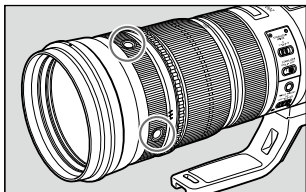


撮影距離範囲をスイッチで選べます。撮影距離に応じた設定にすることで、AF作動時間が短くなります。


切り換え範囲


- ① FULL (2m-∞)
- ② 2m-6m
- ③ 6m-∞

4. AFストップボタン



AF作動中にAFストップボタンを押すと、AFを一時中断することができます。シャッターボタンを半押しした状態で、AFストップボタンを離すと、AFが再開します。

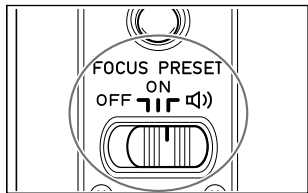
 AI SERVO AFでの撮影中にも有効です。なお、AFストップボタンの角度位置は、キヤノンサービスセンターで調整できます。(有料)

-  ● EOS 630, RT, 5, 10使用時に、AFモードがAI SERVO AFで、フィルム巻き上げモードが連続撮影のときは、AFストップボタンを離してもAFが作動しません。シャッターボタンを半押ししなおしてください。
- EOS 5, 10使用時にスポーツモードを選択したときは、AFストップボタンを離しても、AFは作動しません。シャッターボタンを半押ししなおしてください。
- カメラのカスタム機能により、AFストップボタンの機能を変更することができます。詳しくはカメラの使用説明書を参照してください。

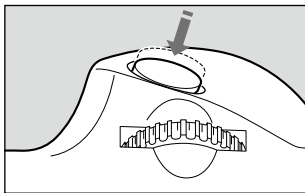
5. フォーカスプリセット

任意のピント位置をレンズに記憶させておくと、他の被写体を撮影していても、瞬時に記憶させたピント位置に戻すことができます。フォーカスモードがAF/PF/MFのどの場合でも使用できます。

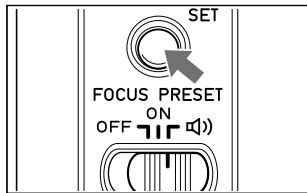
〈設定〉



- 1** フォーカスプリセットスイッチをONまたは🔊)にします。



- 2** シャッターボタンを半押しし、記憶させたいピント位置に合わせてみます。

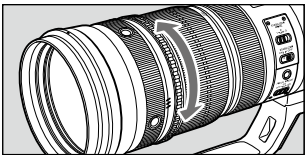


- 3** フォーカスプリセットボタンを押します。


- ピント位置が記憶されます。
- フォーカスプリセットスイッチが🔊)にあるときは“ピッ”という電子音がします。

フォーカスプリセット


〈再生〉




再生リングを左右いずれかに回転させると記憶させたピント位置まで移動します。再生リングを回転させた状態では、AF合焦に関係なくレリーズが可能です。

- フォーカスプリセットスイッチが  にあるときは“ピピッ”という電子音がします。

EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS Kiss X6iで動画撮影時、フォーカスモードスイッチがPFの場合には、ゆっくりとした一定速度でピント送りが可能です。また、再生リングの操作角度によって、ピント移動速度を2段階に切り替えることができます。

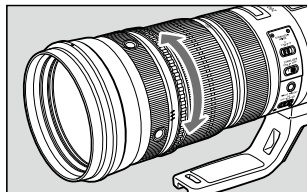
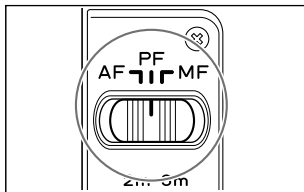
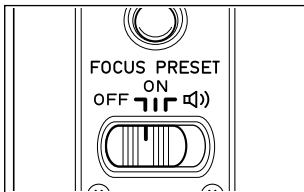
-  次のときは距離目盛 (P.17) が一瞬左右に少し動きますが、撮影結果への影響はありません。
- フォーカスプリセットボタンを押したとき
 - 再生リングを回転させたとき

-  ピント位置を記憶させた後に、異なるズーム位置での再生、および内蔵エクステンダーの切り換え後の再生は、記憶したピント位置からの誤差を生じます。フォーカスプリセット機能は、ズーミングおよび内蔵エクステンダーの切り換え操作後に使用してください。
- 内蔵エクステンダーの切り換え直後は、フォーカスプリセット機能が数秒間（カメラによって秒時は異なります）動きません。
- 内蔵エクステンダーの切り換え直後に、フォーカスプリセットの〈設定〉および〈再生〉をする場合は、シャッターボタンを半押しした後に行ってください。*
- 再生リングを回すときは、シャッターボタンから指を離してください。AFモードがONE SHOT AFのときは、露出はシャッターボタンを半押ししてピントが合ったときにロックされますので、シャッターボタンを半押ししたまま再生リングを回すと、露出が適正にならないことがあります。
- フォーカスプリセットを使用しないときは、スイッチをOFFにしてください。
- カメラでライブビュー映像を表示中は、フォーカスプリセット機能が動きません。*

* EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS Kiss X6iを除く

6. パワーフォーカス (PF) モード

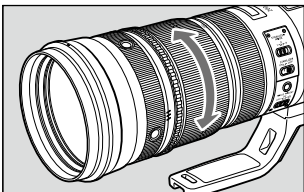
再生リングの操作で、スムーズなピント送りを行うことができます。
動画撮影時のピント送りに便利です。



- 1 フォーカスプリセットスイッチがOFFの状態では、フォーカスモードスイッチをPFにします。
- 2 再生リングを回転操作してピントを送ります。

再生リングの回転方向は、フォーカスリングの回転方向と同じ向きにピントが送られます。
再生リングの操作角度によって、ピント移動速度を2段階に切り替えることができます。

7. ズーミング

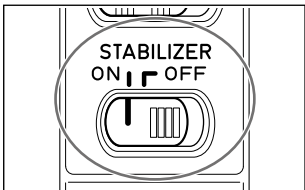


ズームリングを回転させてズームします。

- ⚠️ ピント合わせは、ズームしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズームすると、ピント誤差が生じることがあります。

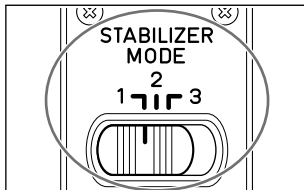
8. 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能は、フォーカスモードがAF/PF/MFのどの場合でも使用できます。
また内蔵エクステンダーが1×/1.4×のどちらの場合でも使用できます。



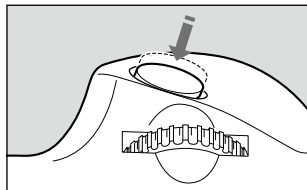
1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはスイッチをOFFにします。



2 手ブレ補正モードを選択します。

- MODE 1：すべての方向の手ブレを補正します。主に静止した被写体の撮影で効果を発揮します。
- MODE 2：水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- MODE 3：露光中のみ手ブレを補正します。流し撮りのときは、露光中にMODE 2と同じく一方向のみの手ブレを補正します。



3 シャッターボタンを半押しした後、全押しして撮影します。

- MODE 1, 2：半押しすると、ファインダー像が安定し手ブレ補正機能が働きます。
- MODE 3：半押しすると、手ブレ補正の演算が始まり、全押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

9. 手ブレ補正機能の有効な使い方

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。

● MODE 1



ON

OFF

- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況

● MODE 2



ON


OFF

- 移動する被写体を流し撮りする場合

● MODE 3

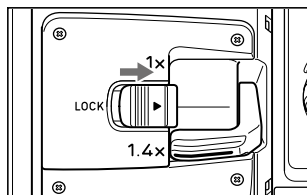
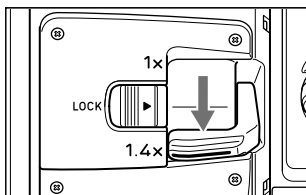
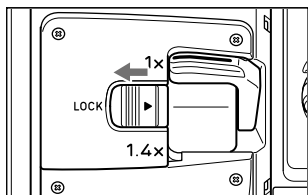
- 露光中のみ手ブレを補正するため、スポーツ写真で不規則に素早く動く選手を撮影する際などにおいて、被写体を追いかけてやすくなります。

手ブレ補正機能の有効な使い方

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
 - バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ONにすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
 - 次のような状況では、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
 - ・大きく揺れ動く乗り物から撮影するとき
 - ・MODE 1で、カメラを大きく動かして流し撮りをするとき
 - 手ブレ補正機能を使用すると、通常より電力が必要なため、撮影可能枚数が少なくなります。
 - シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正が作動しています。この間はレンズを外さないでください。故障の原因になります。
 - EOS-1V/HS、3、7、7s、55、Kiss III、Kiss III L、IX E、D30のセルフタイマー撮影では、手ブレ補正機能は作動しません。
 - 外付けエクステンダー使用時の手ブレ補正機能の作動については、24ページのカメラ/エクステンダー対応表をご覧ください。
-  三脚を使用した場合もブレ補正効果が得られません。ただし三脚の種類や撮影条件により、手ブレ補正機能をOFFにした方が良い場合があります。
 - 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影環境によっては、IS効果が低下する場合があります。
 - カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
 - カメラのカスタム機能でAF作動操作を変更したときは、変更後のAF作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

10. 内蔵エクステンダーの切り換え

エクステンダー切り換えレバーの操作により、焦点距離を1.4倍にすることができます。



1 エクステンダー切り換えロックスイッチを、被写体側（前玉側）にスライドします。

- エクステンダー切り換えレバーのロックが外れます。

2 エクステンダー切り換えレバーを、1×または1.4×に切り換えます。

- レンズの焦点距離が、1倍または1.4倍に切り換わります。

3 エクステンダー切り換えロックスイッチをマウント側にスライドします。

- エクステンダー切り換えレバーがロックされます。

! エクステンダー切り換えロックスイッチは、エクステンダー切り換えレバーの誤操作防止のためのロック機構です。切り換えレバーを端部に固定するものではありません。切り換えレバーを1×に切り換えた場合も、誤操作防止のため必ずロックをしてください。

! 内蔵エクステンダーを使用したときは、制御性を考慮してAF速度を遅くしています。

H 本レンズのエクステンダー切り換え操作には、使用するEOSカメラによって異なる制限があります。下記の2つのカメラグループを確認してご使用ください。

- ・ グループ1のカメラ

EOS-1Ds Mark III、EOS-1Ds Mark II、EOS-1Ds、EOS-1D Mark IV、EOS-1D Mark III、EOS-1D Mark II N、EOS-1D Mark II、EOS-1D、EOS 5D、EOS 5D Mark II、EOS 7D、EOS 60D、EOS 50D、EOS 40D、EOS 30D、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、EOS Kiss X3、EOS Kiss X2、EOS Kiss X50、EOS Kiss F、EOS Kiss デジタルX、EOS-1V/HS、EOS-3

- ・ グループ2のカメラ

グループ1以外のEOSカメラです。

- **グループ1のカメラに装着した場合の制限**

ファインダー撮影時のみエクステンダーの切り換えが可能です。

切り換える際は、カメラおよびレンズの操作をしないでください。

それ以外での切り換えは、カメラやレンズの誤作動*の原因 (p.16) になることがあります。

- **グループ2のカメラに装着した場合の制限**

ファインダー撮影、ライブビュー撮影および動画撮影のどの撮影状態でもエクステンダーの切り換えが可能です。

切り換える際は、カメラおよびレンズの操作をしないでください。(シャッターボタン半押しでの切り換え操作は可能)

それ以外での切り換えは、カメラやレンズの誤作動*の原因 (p.16) になることがあります。

* エラーが表示され撮影ができなくなる場合があります。

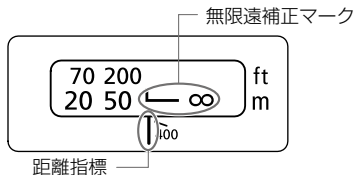
その場合は、カメラの電源を入れなおしてください。

撮影が可能な場合でも、AF機能が正常に働かないことがあります。また、正しいレンズ情報が記録されず、カメラ内補正やDPPソフトによる画像処理が正しく行われないことがあります。

内蔵エクステンダー使用時のご注意

- 誤作動の原因の例として、次の設定、操作または作動中には、内蔵エクステンダーの切り換え操作を行わないでください。
 - ・ シャッターボタン半押し状態での切り換え操作（グループ2のカメラを除く）
 - ・ シャッターボタン全押し状態での切り換え操作
 - ・ レンズまたはカメラが作動中（AF中、手ブレ補正中*、露光中、連続撮影中、フォーカスプリセットの再生中、パワーフォーカスの作動中など）の切り換え操作
 - ・ ライブビュー撮影に設定した状態での切り換え操作（グループ2のカメラを除く）
 - ・ 動画撮影に設定した状態での切り換え操作（グループ2のカメラを除く）上記の条件で内蔵エクステンダーを切り換えた場合は、必ずカメラの電源スイッチを一度〈OFF〉にするか、ファインダー撮影の状態、カメラおよびレンズへの操作を加えない状態で切り換えをやり直してください。
 - ファインダー撮影/ライブビュー撮影/動画撮影の、撮影機能の切り換えは、内蔵エクステンダーの切り換え操作後約2秒間待った後に行ってください。前記の秒時を持たずに撮影機能を切り替えると、エラー（ERR01）が表示され撮影ができなくなる場合があります。
エラーからの復帰には、電源を入れなおしてください。
 - エクステンダー切り換えレバーは、必ず端に止めてください。切り換えの途中で止めた場合、画面のかげりやAFおよびAE等の誤作動をおこします。
 - 1.4×に切り替えると、焦点距離が伸びた分、光量が低下します（Fナンバーは1段分暗くなります）。露出調整は、切り換え操作後に行ってください。
 - 内蔵エクステンダーの切り換え操作で、ピント位置がずれることがあります。ピント合わせは、切り換え操作後に行ってください。
 - 内蔵エクステンダーを切り換えると、絞り値の表示は、F4⇔F5.6（開放時）に切り換わります。ただし、レンズを操作しない状態が続くと、節電のためレンズは休止状態になり、その状態で内蔵エクステンダーを切り換えても絞り値の表示は切り換わりません。このときは、シャッターボタンを半押しし、休止状態から復帰を行うと正しい表示に切り換わります。
- * シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正が作動しています。

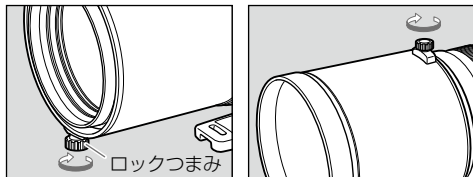
11. 無限遠補正マーク



温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠（∞）位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、距離目盛のLマークの縦線と距離指標が合うところです。

- ④ 無限遠の被写体に、MFで正確にピントを合わせる場合は、カメラのファインダーまたは液晶モニターで確認しながらフォーカスリングを回してください。

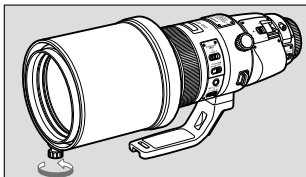
12. フード



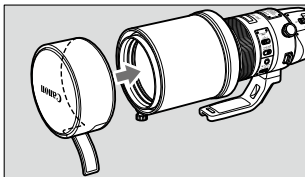
レンズに付属している専用フードは、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。

フードを取り付けるときは、フードのロックつまみを反時計方向に回してゆるめます。フードをレンズのフード取り付け部に合わせ、ロックつまみを時計方向に回して確実に固定します。フードを外すときは、逆の手順で行います。

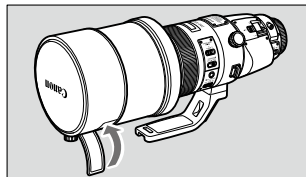
13. レンズキャップの付け方



- 1** フードをレンズ本体に逆向きにかぶせ、ロックつまみを回して確実に固定します。



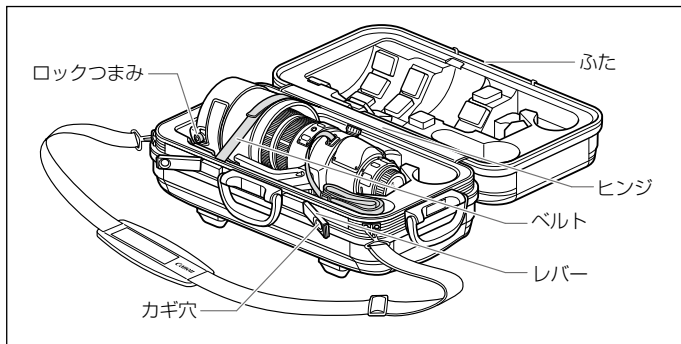
- 2** 面ファスナーを広げ、キャップのタテ溝にロックつまみを沿わせてかぶせます。



- 3** キャップの窓部から、ロックつまみを出して、図のように、面ファスナーで締め付けて固定します。

- レンズを使用状態の時にも、フードの先端に装着できません。

14. ケース



収納は次の手順と方法で行います。

- 1 フードを逆向きにかぶせ、レンズキャップを付けます。
- 2 図のように三脚座を手前にしてケースに入れます。
フードのロックつまみの位置は、イラストのようにケースの手前側に向けます。

- 3 ストラップは、ただでケースのレバー側のスペースに収納します。
 - 4 ベルトでレンズをしっかり固定します。
 - 4 ふたを閉めて、上から押さえながらレバーを押し、カギをかけます。
- レンズケースには腰掛けないでください。
 - レンズは決められたポジションに収納してください。

15. 三脚座の使用法

三脚または一脚は、レンズの三脚座に取り付けます。

レボルビング（回転）

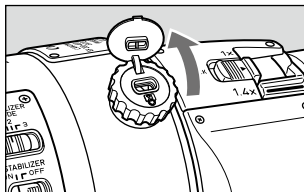
三脚座の画面切り換えロックつまみをゆるめると、カメラごと任意に回転させて画面の縦位置と横位置が変更されます。

三脚座の交換

キヤノンサービスセンターで、付属の一脚座に交換できます。（有料）

固定方法が特殊ですので、安全のためお客様ご自身では交換しないでください。

16. セキュリティースロット

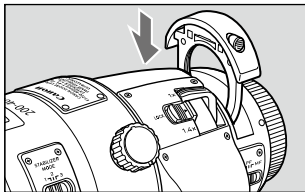


画面切り換えロックつまみのカバーの下に、セキュリティワイヤーの取り付け部を備えています。

セキュリティワイヤーは市販品をご利用ください。

17. ドロップインフィルター

本レンズには、ガラスフィルター付きのドロップインゼラチンフィルターホルダー 52 (WII) が付属しています。ゼラチンフィルター(市販品)をホルダーにはさんで使用できます。



〈 着脱 〉

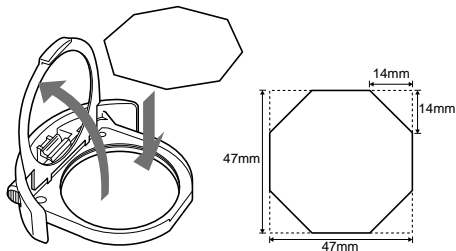
取り外しは、左右のロック解除ボタンを押しながら、まっすぐ上に引き抜きます。

取り付けは、“カチッ”と音がするまで押し込みます。

● 前後どちらの向きでも構いません。

! 本レンズはガラスフィルターを含めて光学設計されていますので、ゼラチンフィルターを使用しないときにも必ずドロップインゼラチンフィルターホルダーを装着してください。

〈 ゼラチンフィルターの使用 〉



- 1 ホルダーの押さえ板を持ち上げます。
- 2 ゼラチンフィルターを図のように切り、ホルダーに乗せます。
- 3 ホルダーの押さえ板をもとの位置に戻します。

! 別売でドロップインスクリューフィルターホルダー 52 (WII)、ドロップイン円偏光フィルター PL-C52 (WII) が用意されています。

18. エクステンダー（別売）

エクステンダー EF1.4×II/IIIおよびEF2×II/III使用時のレンズの仕様は次のようになります。

内蔵エクステンダー 1×選択時

| | | エクステンダー EF1.4× II/III | | エクステンダー EF2× II/III | |
|-----------|----|-----------------------|---------|---------------------|--------|
| | | WIDE | TELE | WIDE | TELE |
| 焦点距離 (mm) | | 280 | 560 | 400 | 800 |
| 絞り数値 | | F5.6-45 | F5.6-45 | F8-64 | F8-64 |
| 画角 | 対角 | 8° 50′ | 4° 25′ | 6° 10′ | 3° 05′ |
| | 垂直 | 4° 55′ | 2° 25′ | 3° 30′ | 1° 40′ |
| | 水平 | 7° 20′ | 3° 40′ | 5° 10′ | 2° 35′ |
| 最大撮影倍率(倍) | | 0.15 | 0.22 | 0.21 | 0.31 |

内蔵エクステンダー 1.4×選択時

| | | エクステンダー EF1.4× II/III | | エクステンダー EF2× II/III | |
|-----------|----|-----------------------|--------|---------------------|--------|
| | | WIDE | TELE | WIDE | TELE |
| 焦点距離 (mm) | | 392 | 784 | 560 | 1120 |
| 絞り数値 | | F8-64 | F8-64 | F11-91 | F11-91 |
| 画角 | 対角 | 6° 20′ | 3° 10′ | 4° 25′ | 2° 10′ |
| | 垂直 | 3° 30′ | 1° 45′ | 2° 25′ | 1° 15′ |
| | 水平 | 5° 15′ | 2° 40′ | 3° 40′ | 1° 50′ |
| 最大撮影倍率(倍) | | 0.21 | 0.3 | 0.3 | 0.44 |

エクステンダー（別売）

- レンズにエクステンダーを取り付けた後、カメラに取り付けてください。取り外しは逆の手順で行ってください。先にカメラを取り付けると、誤作動することがあります。
- 本レンズに、エクステンダー EF1.4×II/EF2×IIを使用し、EOS 5で撮影するときは、EF1.4×IIでは-1/2段分、EF2×IIでは-1段分の露出補正をしてください。
- エクステンダーは重ねて使用できません。
- EOS-1D Mark II以降に発売された開放絞り値F8でAF撮影ができるEOSカメラをご使用の場合、以下のことにご注意ください。
本レンズと1.4×のエクステンダーを組み合わせた状態で内蔵エクステンダーを1.4×に設定すると、開放絞り値がF8になるため、カメラのAFフレームは中央AFフレームによるAF撮影になります。
その後、内蔵エクステンダーを1×に戻した際も、中央AFフレームによるAF撮影のままになります。
中央AFフレーム以外をお使いのときは、AFフレームを選びなおしてください。

 エクステンダーを使用したときは、制御性を考慮してAF速度を遅くしています。

19. カメラ/エクステンダー対応表

| \内蔵エクステンダー | 1×選択時(開放F4) | | | | | | | | 1.4×選択時(開放F5.6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------------|----|--------|----|---------|----|---------|----|-----------------|----|--------|----|------|---------|---------|----|-------|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | \エクステンダー種類 | | 1.4×II | | 2×II | | 1.4×III | | 2×III | | 1.4×II | | 2×II | | 1.4×III | | 2×III | | | | | | | | | | | |
| \実際のF値 | F5.6 | | F8 | | F5.6 | | F8 | | F8 | | F11 | | F8 | | F11 | | | | | | | | | | | | | |
| \機能 | AF | IS | AF | IS | AF | IS | AF | IS | AF | IS | AF | IS | AF | IS | AF | IS | | | | | | | | | | | | |
| EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS-1D Mark IV、EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark III | AF* | ○ | MF* | ○ | AF | ○ | MF* | ○ | MF* | ○ | MF | ○ | MF* | ○ | MF | ○ | | | | | | | | | | | | |
| EOSデジタルカメラ (次ページのカメラ*1) | | | AF* | | | | MF | | AF | | | | ○ | | | | AF | ○ | AF* | AF | ○ | MF | ○ | | | | | |
| EOSデジタルカメラ (1D X、5D Mark III、1D Mark IV、1Ds Mark III、1D Mark IIIと次ページのカメラ*1を除く) | | | MF | | | | | | MF | | | | MF | | | | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | | | | |
| フィルム一眼レフカメラ (EOS-1V) | | | MF | | | | MF | | MF | | | | MF | | | | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF |
| フィルム一眼レフカメラ (EOS-1Vと次ページのカメラ*2を除く) | | | MF | | | | MF | | MF | | | | MF | | | | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF |
| フィルム一眼レフカメラ (次ページのカメラ*2) | | | MF | | | | MF | | MF | | | | MF | | | | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF | MF |
| | | | ※ | | 使用できません | | | ※ | | ※ | | ※ | | 使用できません | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| AF | オートフォーカス (AF) で撮影ができます。 |
| AF* | AFで撮影ができます。ただし、AFのピントが正確に合わないことがあります。 AFマイクロアジャストメント機能のあるカメラをご使用の場合は、AF微調整を行ってください。 AFマイクロアジャストメント機能のないカメラで、AFが大きくずれる場合は、マニュアルフォーカスで撮影してください。 ・AF動作及びAFマイクロアジャストメントについては、カメラの使用説明書をご覧ください。 |
| MF | AFは使用できません。マニュアルフォーカス (MF) で撮影をしてください。 |
| MF* | AFは使用できません。マニュアルフォーカス (MF) で撮影をしてください。 なおカメラのファームウェアをアップデートすることにより、AFで撮影ができます。 ファームウェアのアップデートについては、キヤノンのホームページでご確認ください。 |
| ○ | 手ブレ補正機能が使用できます。 |
| ※ | 次ページのカメラ*2では、手ブレ補正機能は使用できません。 |

● EOSデジタルカメラでエクステンダーをご使用の場合は、EF1.4×IIIおよびEF2×IIIをおすすめします。

カメラ/エクステンダー対応表

- *1 : EOS-1D Mark II、EOS-1Ds Mark II、EOS-1D Mark II N、EOS-1D、EOS-1Ds
- *2 : EOS650、EOS620、EOS750、EOS750 QD、EOS850、EOS850 QD、EOS700 QD、EOS10 QD、EOS1000 QD、EOS100 QD、EOS630、EOS RT、EOS-1、EOS1000 S、EOS 5

20. エクステンションチューブ (別売)

エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

内蔵エクステンダー 1×選択時

| | | 撮影距離範囲(mm) | | 撮影倍率(倍) | |
|---------|------|------------|-------|---------|------|
| | | 近距離側 | 遠距離側 | 近距離側 | 遠距離側 |
| EF12 II | WIDE | 1350 | 3743 | 0.17 | 0.06 |
| | TELE | 2057 | 12954 | 0.2 | 0.03 |
| EF25 II | WIDE | 1029 | 1883 | 0.26 | 0.13 |
| | TELE | 1783 | 6182 | 0.26 | 0.07 |

内蔵エクステンダー 1.4×選択時

| | | 撮影距離範囲(mm) | | 撮影倍率(倍) | |
|---------|------|------------|-------|---------|------|
| | | 近距離側 | 遠距離側 | 近距離側 | 遠距離側 |
| EF12 II | WIDE | 1601 | 7496 | 0.36 | 0.04 |
| | TELE | 1795 | 26536 | 0.26 | 0.02 |
| EF25 II | WIDE | 1354 | 3835 | 0.52 | 0.09 |
| | TELE | 1634 | 13248 | 0.32 | 0.05 |



正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

主な仕様

| | | 内蔵エクステンダー 1×選択時 | 内蔵エクステンダー 1.4×選択時 |
|----------|----|---------------------|-------------------|
| 焦点距離・明るさ | | 200-400mm F4.0 | 280-560mm F5.6 |
| レンズ構成 | | 20群25枚 | 24群33枚 |
| 最小絞り | | F32 | F45 |
| 画角 | 対角 | 12° ~ 6° 10' | 8° 50' ~ 4° 25' |
| | 垂直 | 7° ~ 3° 30' | 4° 55' ~ 2° 25' |
| | 水平 | 10° ~ 5° 10' | 7° 20' ~ 3° 40' |
| 最短撮影距離 | | 2m | |
| 最大撮影倍率 | | 0.15 (400mm時) | 0.21 (560mm時) |
| 画界 | | 約157×235mm (2m時) | 約111×166mm (2m時) |
| フィルター | | ドロップイン52 (WII) シリーズ | |
| 最大径×長さ | | 128×366mm | |
| 質量 | | 約3620g | |
| フード | | ET-120 (WII) | |
| レンズキャップ | | E-145C | |
| ケース | | レンズケース200-400 | |

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。
キャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+約26mmになります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- クローズアップレンズ250D/500Dは装着できません。
- 絞り値は、カメラ側で設定します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ
canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター
050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日〉9:00~20:00〈土/日/祝〉10:00~17:00〈1/1~3は休ませていただきます。〉

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-3455-9353をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon